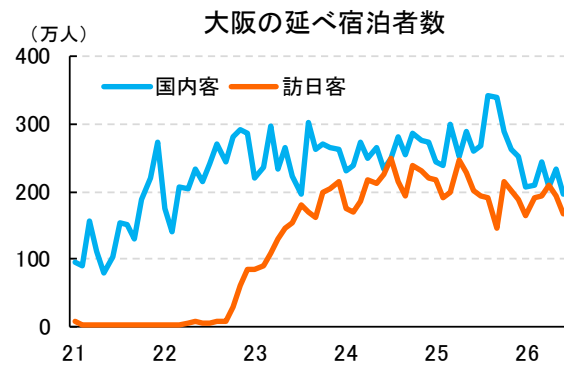
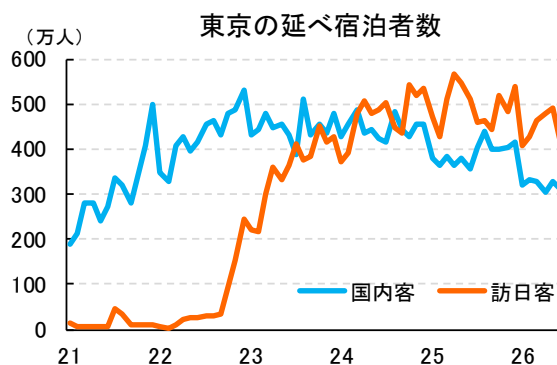
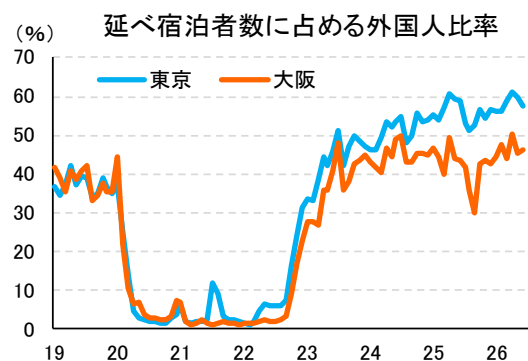
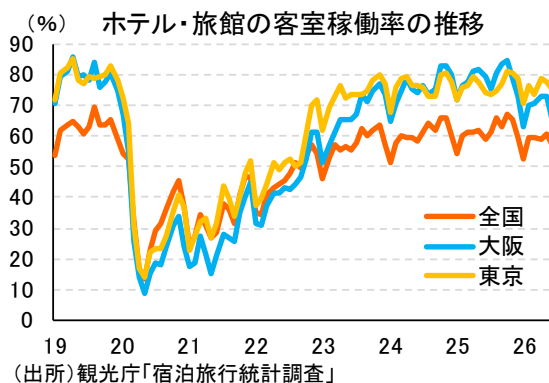


関西の景気トピックス【ホテル稼働率（26 年 6 月）】

- 26 年 6 月の宿泊旅行統計調査（観光庁）によると、足元の客室稼働率は全般的に前年を下回る動きとなる中、特に大阪の低下傾向が目立つ。これは昨年の万博開催に伴う反動減が大きいほか、中国の渡航自粛の影響も少なくないとみられる。
- 延べ宿泊者数に占める外国人比率については、東京と大阪の格差が開いている。東京が 50%を上回る水準で、直近も右上がりの推移が続く一方、大阪は 40%台で推移している。ただ、東京も右上がりが続いているとはいえ、外国人客が増え続けているわけではない。
- 延べ宿泊者数の推移をみると、東京は訪日客がやや横ばいで、国内客が減少傾向にある結果、外国人比率の上昇につながっているのが現状である。一方、大阪は訪日客、国内客ともに減少傾向にあり、結果として外国人比率に大きな変化はみられない。ともに冒頭の客室稼働率の推移が示すように、業況が上向き傾向にあるわけではなく、特に国内客の需要は減少傾向にある。これは宿泊料金の上昇の結果、客離れにつながっているものとみられる。



本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
 TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp